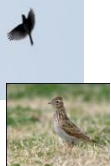


彩の歳時記

平成二十四年 四月

うららかに
照れる春日に 雲雀あがり
心悲しも ひとりし思へば

「うららかに照っている春日に雲雀(ひばり)が揚あがり、私の心は、物悲しく独りぼっちで物思いに耽っている」



状態が昇ってゆく雲雀は、陽春の風物詩。大伴家持【718～785】は、万葉集の編者で名門の大伴一族の総領、これは、三十才代の歌。喜び溢れる春なのに、心はなぜか満たされず、愁いを感じるという青年期特有の感傷は、時代を超えるものがあり、まさに「春愁」を詠んでいます。大伴氏は朝廷に重用されましたが、藤原氏の台頭により、家持も父の跡人も九州の筑紫に左遷されました。

四月の異称

卯月 卯の花(初夏の頃、白い五弁の花をつける)の咲く月。卯の花月の略。



四月の暦

一日 新年度始め 「年度」とは、特定の目的のために規定された一年間の区切り方「会計年度」

「学校年度」などが有名で明治時代から続く。東京大学が五年後をめぐりに、秋期(9月?)入学、六月卒業の学年度制を表明している。「さくら咲く」と「さくら散る」なども、死語になるのでは。

エイプリルフル(四月馬鹿) 1564年、仏のシャルル8世が、それまでヨーロッパで新年だった

三月二五日を一月一日にする暦を採用したことにより、反発した人々が、この日を「嘘の新年」と位置づけ、馬鹿騒ぎするようになったと言われる。日本は、古来より「不義理を詫びる日」。



四日

清明【二十四節気】「万物発して清浄明潔なれば、此芽は何の草としれるなり」『暦便覧』

八日

花祭 お釈迦様の誕生日。正式には灌仏会(かんぶつえ)。全国各地の寺で生誕を祝う。

花を飾った御堂の中の桶の中央に誕生仏を置き、桶に満たした甘茶を注ぐ。これは釈迦誕生時に八王竜王が喜びのあまり甘露の雨を降らせたことに由来。「灌」は「灌(そそぐ)」。



十三日

啄木忌 詩人・石川啄木【1886～1912】の命日。岩手県の曹洞宗の寺の長男として出生。

かにかくに 浜民村は恋しかりおもいで山 おもいで山

今年、没後百年。明治三陸大津波の四年後の1900年(明治33)に陸前高田市の高田松原を訪れており、同市に歌碑があったが津波で流失、二月二十日生まれるの啄木に因み、来年二月二十日に新たな歌碑を建立予定。歌碑の詩歌は左。



いのちなき砂のかなしさよさらさらと握れば 指のあひだより落つ

【歌集『一握の砂』より】

十六日

康成忌 ノーベル賞作家・川端康成【1899～1972】の忌日。没後四十年。大阪市生まれ。

「日本人の心情の本質を描いた、非常に繊細な表現による彼の叙述の卓越さに対して」は、ノーベル賞受賞の記。『伊豆の踊子』『雪国』『千羽鶴』『山の音』など映画化された作品も多い。門下の三島由紀夫の割腹自殺等による強度の精神的動揺からガス自殺。



二十日

穀雨【二十四節気】「春雨降りて百穀を生化すればなり」『暦便覧』

二十九日

昭和の日 国民の休日。元は昭和天皇誕生日。平成元年から十九年までは「みどりの日」

四月の歌

春風 (主人は冷たい土の中)

詞 加藤義清

曲 フォスター

フォスター【1826～1864】は『懐かしきケンタッキーの我が家』『故郷の人々』

(スワニー河)・夢路より』などで有名なアメリカを代表する歌曲作曲家。

加藤義清【1864-1941】は名古屋出身の歌人で近衛師団軍楽隊楽手・御歌所寄人。

この歌は、小津安二郎監督『東京物語』ラスト近く、ヒロイン原節子が汽車に乗り「尾の道」から東京へ帰る場面の直前に流れる。義妹、香川京子演じる小学校教諭の教室で「♪吹けそよそよ吹け、春風よ♪」と歌う児童たちの弾んだ歌声が流れ、教室の窓から身を乗り出す妹に、海側を走る蒸気機関車が上から映し出される。

一・吹けそよそよ吹け 春風よ

吹け春風吹け 柳の糸に

吹けそよそよ吹け 春風よ

吹け春風吹け 我等の風に

吹けよ吹け 春風よ

やよ 春風吹け

そよそよ吹けよ

二番 略

